科目名	芸術Ⅰ（美術） Art Ⅰ(Fine Arts)			担当教員	永井　崇幸 （窓口教員：坂本具償）		
学　年	1	学　期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分　野	一般	授業形式	実技	科目番号	13120011	単位区分	履修単位

学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。

学習内容	学習項目（時間数）	合格基準
	１．鉛筆デッサン―　ペンを持った手（1）	鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。 2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 学習・教育目標（A）
	２．記憶の絵地図（５）　着彩	自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 学習・教育目標（A）
	３．構成と表現 （1）色彩の学習（1） （2）「楽しい」と「悲しい」の表現　（3）　着彩 （3）「寒い」と「暖かい」の表現　（5）　着彩 （4）「軽い」と「重い」の表現　（6）　着彩	色の知覚・心理的効果を学習して、効果的な色彩表現を学ぶ。 枠の中に着色できる。混色が出来る。 比較することで観念的でないイメージを膨らませる。 形と色によって、言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。 学習・教育目標（A）
	４．精密描写　（１０）　鉛筆デッサン、着彩	身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現が出来る。 デッサンをして立体感のある表現をする。 何度も塗り重ねる透明水彩の技法を習得する。 学習・教育目標（A）

評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。
履修条件	特になし
関連科目	芸術Ⅰ(美術)（1年）　→　芸術Ⅱ（美術）（2年）
教　材	スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。(2年間使用)
備　考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受付け、評価の対象にします。 単位追認は、未提出・未完成の作品を全て完成させて提出する。